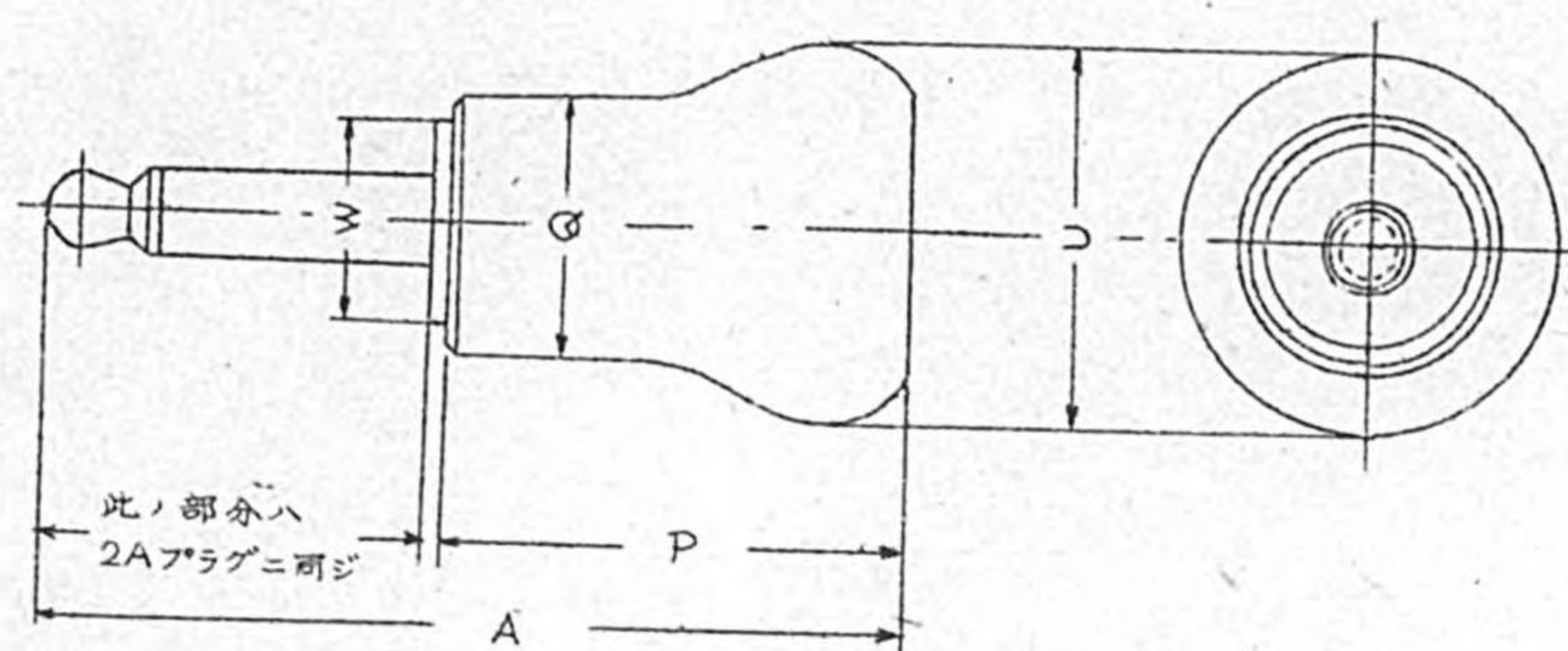


R2A プラグ



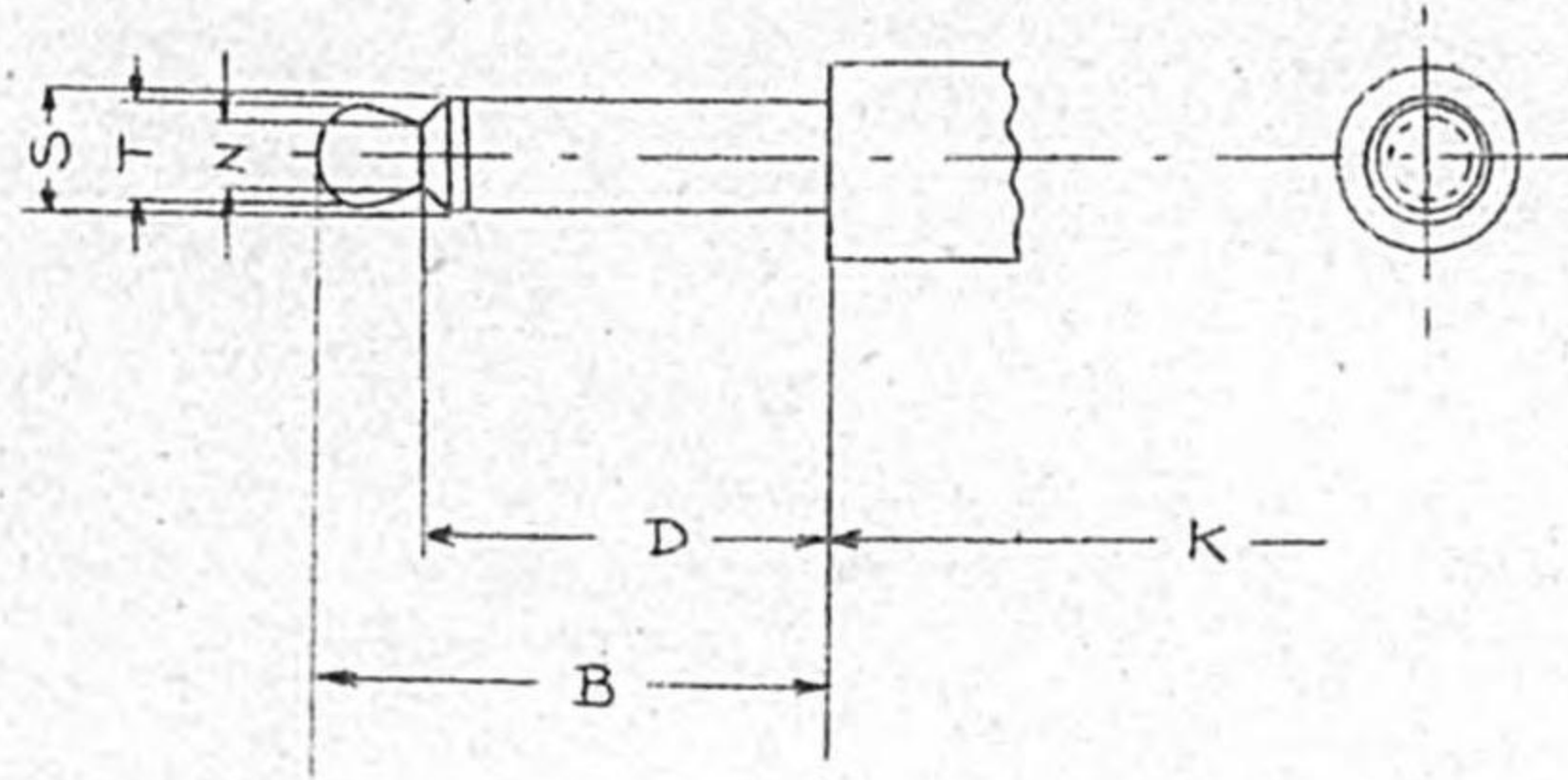
単位 mm

| | A | P | Q | U | W |
|----|------|------|------|------|------|
| 寸法 | 67.6 | 36.5 | 20.6 | 28.5 | 16.0 |
| 公差 | ±1.0 | ---- | ---- | ---- | ±0.5 |

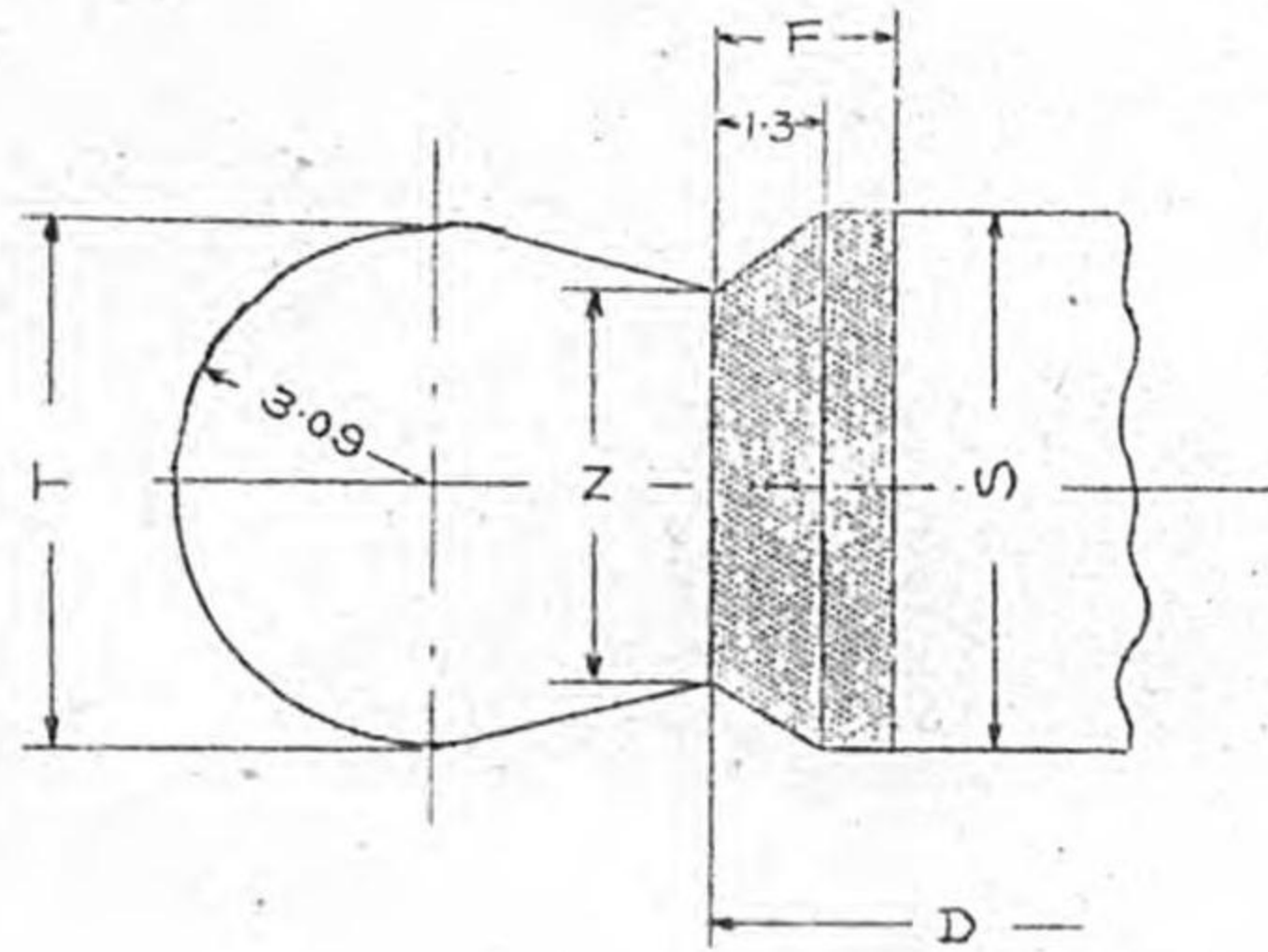
- 備考
1. 本規格ハ電気通信用ノ2心受話器「プラグ」ニ之ヲ適用ス
 2. 本品ノ絶縁耐力ハ端子ト「スリーブ」間ニ50「サイクル」又ハ60「サイ・クル」ノ正弦波電壓500「ボルト」ヲ2秒間加フルモ異状ヲ呈セザルコトヲ要ス

M2A プラグ

単位 mm



拡大図



| | B | D | F | N | T | S |
|---------------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 寸法 | 30.1 | 23.7 | 2.10 | 4.60 | 6.18 | 6.34 |
| 公差 | ±0.3 | ±0.3 | ±0.05 | ±0.04 | ±0.04 | ±0.04 |
| K部ノ形状及寸法ハ規定セズ | | | | | | |

- 備考. 1. 本規格ハ電気通信用ノ2心「プラグ」ニシテ主トシテ無線用ノモノニ之ヲ適用ス
2. 本品ノ絶縁耐カハ端子ト「スリーブ」間ニ50「サイクル」又ハ60「サイクル」ノ正弦波電壓500「ボルト」ヲ2秒間加フルモ異状ヲ呈セザルコトヲ要ス

機密

號二四第

通五機密合第二六一九號

昭和十五年六月六日

拾年保

三三九一

陸軍省 15.6.6

別紙添附

陸軍省 15.6.7 787 軍務課

外務次官 谷

正

外務次官之印

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

米國ノ軍需資材輸出禁止乃至制限ニ關スル件

中村

本件ニ關シ今般在米堀内大使ヨリ別紙甲號、乙號、丙號、丁號竝ニ

戊號寫ノ通電報越シタルニ付委曲右ニテ御了悉ノ上本件輸出禁止乃

至制限對策御考究相煩度シ

本信送付先 陸軍省、海軍省、商工省、鐵道省、大藏省、企畫院



六月一日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

甲 號

歐洲戰局ノ推移ニ件ヒ究極ニ於テ米國カ參戰避ケ難キ場合ノ生シ得ルコトヲ考慮スルト共ニ戰後ノ事態ニ備ヘ有力ナル發言權ヲ把握セントスル下心ヨリ米國ハ目下ソノ國防增強策ニ熱中シ居ル旨ハ既ニ電報致置タル處新聞情報ニ依レハ前記國防強化策ハ愈々實現シ必要ナル軍需工業ノ擴張ヲ圖ル目的ヲ以テ最近陸軍省ハ國內ノ工作機械工業ノ實情ヲ内密ニ調査セル結果多數ノ工場ハ日本ヨリノ注文ニ應シ居ルコト竝ニ日本ハ莫大ナル工作機械ノ貯藏ヲ有シ居ルニモ拘ラス萬一ノ日ニ備ヘ屑鐵ト共ニ之カ注文ヲ爲シ居ルコト等判明セル趣ニテ右ハ軍需工業擴張ヲ阻害スル惧アリト報道シ居リ之カ爲又復工作機械及屑鐵ノ對日「エンパーゴール」ヲ説クモノ巷間ニ現ハレ來リ居ル有様ナリ現在ノ處未ダ對日壓迫手段トシテノ禁輸法案カ成立ス

外務省

ルニ至ル情勢ハ認メラレサルモ英佛援助ノ必要上又ハ米國國防補強ノ必要上等ヨリ一般的ニ軍需資材ノ輸出制限又ハ禁止ノ實現ヲ見ルニ至ル可能性ハ多分ニ在リ現ニ下院陸軍委員長「メイ」ノ提出ニ係リ客月二十四日下院ヲ通過セル陸軍航空隊增強法案ニシテ愈々成立スル場合ニハ大統領ハ同法案第三節（乙號參照）ノ規定ニ基キ國防上必要ト認ムル總テノ軍需資材ノ輸出ヲ制限又ハ禁止シ得ルコトトナリ、工作機械屑鐵等ノ輸出モソノ結果實際上頗ル困難トナル事態發生スルコトアルヘキニ付豫メ前記ノ如キ場合ニ處スヘキ對策等考究シ置カレタシ



昭和十五年六月一日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

乙號

Whenever President determines that it is necessary in interest of national defence to prohibit or curtail exportation of any military equipment or munitions or component parts thereof or machinery tools or material necessary for manufacture or serving thereof he may by proclamation prohibit or curtail such exportation except under such rules and regulations as he shall proscribe. Any such proclamation shall describe articles or materials included in prohibition or curtailment (罰則省略) The authority granted in this section shall terminate June 30, 1942 unless the Congress shall otherwise provide.

外務省



昭和十五年六月二日

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

丙號

六月一日三菱紐育支店ヨリノ通報ニ依レハ

六月一日朝紐育税關ヨリ本邦船舶會社ニ對シ今後何分ノ沙汰アル迄 Machinery, Machine-Tool, Aero-Engine and Parts, Motors

ノ積出ヲ差控フル様通牒越シタルニ付

ニ右ニ對シ日本郵船ヨリ問合セタル處

(イ) 本件措置ハ華府ヨリノ命令ニ基キタルコト

(ロ) 明文規則ニ基キタルモノニアラサルモ兩三日中ニ規則發令ノ豫定ナル由

(ハ) 右差止命令ニ對シテハ業者側ヨリ積荷ニ關スル詳細(製作者ノ名前 Serial Number of Machine; Numbers of Machines

及

Electric Equipment

ニ付テハ A.C., D.C. ノ區別)ヲ通知セハ

外務省

右ヲ華府ニ移牒シ其ノ許可アル場合差止ヲ解除スルコトアルヘ
シ

(一) 既ニ積込ヲ了セルモノニ付テハ本件ノ適用無シ

(二) 本件措置ハ國防ノ見地ヨリ採ラレタルモノニシテ日本ニ對シテ
ノミ爲サレタルモノニ非スシテ各國ニ對シ同様適用セララル趣
ナリ

速
必
寫

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

六月二日着

丁號

往電丙號ニ關シ

一日正午森島ヲシテ不取敢「グレイデー」國務次官補ヲ訪問往電丙號ノ内容ヲ通報スルト同時ニ(一)右税關ノ命令ノ根據如何ヲ承知シタク(二)右税關ノ命令ハ既積込品ト積込未了ノ物トヲ區別シ居ルハ腑ニ落チス積込許可方至急措置セラレタキコト(三)軍需資材等ヲ許可制度トスル法規制定ノ場合ニモ少クトモ既契約品ハ除外セラルヘキモノナルコトヲ申入レシメタル處「グレイデー」ハ歐洲ノ情勢ニ鑑ミ國防ノ見地ヨリ軍需資材等ヲ許可制度トスル目的ヲ以テ議會ニ於テ法規制定ヲ取急キ居ルコトハ事實ナルモ前記ノ税關ノ命令ハ初耳ニテ何等知ル所ナキヲ以テ(一)及(二)ニ付テハ關係方面ニ早速照會ノ上何分ノ儀御知ラセスヘク(三)ハ要スルニ法令ノ内容如何ニ依ル問題ナルカ

自分トシテハ議會ニテ現在審議中ノ法案ハ既契約品ニ付テハ何等觸
レ居ラスト承知シ居レリ然シ米國トシテモ白蘭等トノ間ニ物資購入
契約成立シタルニ拘ラス白蘭政府ノ方針ニ依リ現ニ輸入シ得サル物
資多量アル旨答ヘタリ依テ我方トシテハ成ルヘク速ニ回答ヲ得タク
本日午後ニテモ伺ヒ得ヘキヤト森島ヨリ述ヘタルニ「グレーデー」
ハ成ルヘク右様取計フヘシト答ヘタル趣ナリ右不取敢

逕
寫

昭和十五年六月二日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

戊
號

往電丁號ニ關シ

一日午後森島宛「グレイデー」ヨリ本件税關ノ命令ハ大藏省ノ命令
ニ基クモノニシテ米軍備擴張ノ爲國防上 essential ナル war material
ノ積出ヲ差止メタルモノニシテ右ハ大統領ノ general powers ニ基クモ
ノナリ尙本件命令ハ各國ニ對シ一様ニ適用セラレ差別的ナラサル點
ニ御留意アリタク。Control office ノ Green ト詳細ノ點ハ話シ合ヒセ
ラレタキ旨電話越セリ三日 Green ト話合ヒノコトトスヘシ

外
務
省

機密

閱

局長

戰備

中村

通五機密合第二八五四號

昭和十五年六月二十日

吉三九一

六三三



別紙添附

外務次官 谷

正

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

米國國防法案ニ關スル件

本月六日附通五機密合第二六一九號往信ヲ以テ米國ノ軍需資材輸出制限乃至禁止ニ關シ申進置タル處今般在米堀内大使ヨリ軍需品輸出統制條項ヲ含ム國防法案米國兩院ヲ通過シタル趣ヲ以テ別紙甲號乙號竝ニ丙號ノ通電報越タルニ付右茲ニ送付ス
本信送付先 陸軍、海軍、商工、大藏、鐵道各省及企畫院



六月十二日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

寫

十日上院本會議ニ於テ「シエバード」ハ國防法案ノ審議中本件軍需資材等輸出統制條項ノ説明ヲ爲シ急速ニ軍備整備ヲ要スル關係上大統領ニ禁輸又ハ制限ノ權能ヲ附與スル必要アル旨述ヘタル處之ニ對シ「バンデンベルグ」ハ「シエバード」ノ説明ニ依レハ特定國ニ限り禁輸スルコトモ可能ナル趣ノ處米國自身資材保存上禁輸ノ必要ヲ認ムレハ何國ニ對シテモ輸出セサルヲ適當トスル次第ナルヘシト述ヘ又「ミントン」ハ本法案ニ依リ屑鐵ノ禁輸モ可能ナリヤト質問セルニ對シ「シエバード」ハ然リト答ヘ尙案文ヲ完全ニスル見地ヨリ *material necessary for the manufacture or servicing thereof* トアルヲ詳シク *manufacture, operation, or servicing* ト修正スル様提案シ又本法案ニ關シテハ上院陸軍委員會通過後陸軍省ヨリ數箇ノ修正案ヲ接受セルニ付委員會ハ之等修正案ニ付テ

ハ未審議ナル旨竝ニ上院ニ於テ本法案ノ討議ヲ終了次第本案ト略
同様ナル下院案（「メイ」案）上提ノ動議ヲ行ヒ下院案ニ本法案
ヲ合一セシメタル上之ヲ兩院協議會ニ送付シタキ意向ナリト述へ
タリ

乙 號

六月十二日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

往電甲號ニ關シ

軍需品輸出統制條項ヲ含ム國防法案ハ十一日上下兩院案ヲ合一シ
全會一致（八〇對〇）ヲ以テ上院ヲ通過シ兩院協議會ニ回付セラ
レタリ

外務省

丙子

六月十五日着

有田外務大臣宛在米堀内大使發電報寫

往電乙號ニ關シ

軍需品等輸出統制條項ヲ含ム國防法案ハ往電甲號修正ノ通りニテ
十三日兩院協議會ヲ通過シ大統領ノ許ニ送達セラレタリ

(陸密) 副官ヨリ教育總監部庶務課長へ照會案

海軍次官ヨリ別紙寫ノ通照會アリタルニ付修學方取計相成度依命照會ス

追テ細部ニ關シテハ豐橋陸軍豫備士官學校ト海軍砲術學校トノ間

ニ直接協議セシムルコトト致度

陸密第一二二五七號

昭和十五年六月廿五日

別紙：海軍次官ヨリ陸軍次官へ照會之ト

右異存ナキ旨回答アリタル後

(陸密) 次官ヨリ海軍次官へ回答案

六月十二日附官房機密第四一一一號照會ノ件修學方異存無之ニ付承知相成度

追テ細部ニ關シテハ海軍砲術學校ト豐橋陸軍豫備士官學校トノ間ニ直接協議セシメラレ度申添フ

陸密第一三〇〇號

昭和十五年六月廿九日

Handwritten notes and stamps on the left margin, including a circular seal and some illegible text.

陸軍省 第一〇六六六號

官房機密第四一一一號

昭和十五年六月十二日



陸軍次官 阿南 惟 幾 殿

海軍次官 住山 德太郎



海軍砲術學校下士官教員派遣修學ノ件照會

海軍砲術學校下士官教員ヲ左記ニ依リ豊橋陸軍豫備士官學校ニ派遣シ同校歩兵科下士官候補者學生教程（陸戰一般）ヲ修學セシメ度候條御承諾ヲ得度

追テ豊橋陸軍豫備士官學校ト海軍砲術學校トハ下協議濟ニ有之候
記

| | |
|-------------|--------------|
| 修學期間 | 派遣修學者 |
| 自昭和十五年七月十五日 | 海軍二等兵曹 石原 孫美 |

(本田納) 市

至同

十一月十五日

(四箇月)

同

同

岡

渡

田

邊

人

清

(終)

(本田納)

市

海軍

秘

陸軍省

教密第九一五號

豐橋陸軍豫備士官學校へ海軍砲術學校下士官教員
派遣修學ノ件回答

昭和十五年六月二十八日

教育總監部庶務課長 今井一二三

教育總監部庶務課長

陸軍省副官 川原直一 殿

六月二十五日附陸密第一二五七號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件異存無
之修學方取計ヒ置ケリ

15.6.29

陸軍省
15.6.29
受266
兵務課

陸

軍

閱

主計

第四四號

大日本帝國政府

七月十日



拾年保

陸軍省 第一三三三三

官房祕甲第八三號

昭和十五年七月三日



大藏大臣 櫻内幸雄

陸軍大臣 畑俊六殿



昭和十五年度歳出豫算ノ節約ニ關スル件

右別紙ノ通本日閣議決定相成候ニ付此段及通達候也



昭和十五年度歳出豫算ノ節約ニ關スル件

昭和十五年度歳出豫算ノ實行ニ當リテハ内外ニ於ケル情勢ノ推移ニ即應シ物資動員計畫及資金統制計畫ノ實施ヲ圓滑ナラシムルト共ニ經濟諸政策トノ完全ナル調和ヲ圖リ他面經費ノ使用ヲ眞ニ強行スベキ施設ノ重點ノミニ集中シ以テ戰時經濟ノ強化乃至事變處理ノ促進ニ資スル爲此ノ際能フ限り政府支出ノ緊縮抑制ニ努ムルノ要アリト認メラル依テ各省ハ曩ニ閣議決定ニ係ル「昭和十五年度ニ於ケル豫算實行方ニ關スル件」ノ趣旨ヲ体シテ大藏省ト協議ノ上一般及特別各會計ヲ通ジ左記要綱ニ基キ至急徹底的節約案ヲ作成シ更メテ之ヲ閣議ニ提出スルモノトス

記

- 一、節約ノ對象ハ經費ノ既定タルト新規タルトヲ問ハズ本年度豫算ノミチ前年度豫算ノ繰越額ヲモ之ニ包含セシムルコト
- 二、節約ノ方法ハ「節減」及「留保」ノ二種トシ留保額ノ内繰延又ハ

繰越トスルモノニ社テハ昭和十六年度概算決定迄ニ各省ト大藏省ト
協議ノ上之ヲ確定スルコト
三、節約ノ程度ニ關シテハ大藏省ニ於テ計畫シ各省共ニ眞ニ已ムヲ得
ザル事由アル場合ノ外之ニ協力スルコト
四、節約額ハ昭和十五年度ニ於テハ之ヲ使用セザルヲ目途トスルモ時
局ノ推移ニ依リ節約ヲ解除セントスルトキハ其ノ都度閣議ノ決定ヲ
經ベキコト
五、節約ノ費目別ハ各省ト大藏省トノ協定スル所ニ依ルコトトス
ルモ將來實行上ノ都合ニ依リ之ヲ變更シ得ルコト

陸普次官ヨリ海軍次官へ回答

七月五日附官房機密第四六二四號照會ニ係ル
首題ノ件關係ノ向へ通牒致置タルニ付承
知相成度候

■普第四六九四號

昭和五年七月八日

陸普副官ヨリ兵器本部統務部長へ通牒
首題ノ件ニ關シ海軍省ヨリ別紙字ノ通照
會有之タルニ付可然取計ハレ度依令通牒ス

■普第四六九四號

昭和五年七月八日 當

別紙字官房机密略



秘



陸軍省 第一三三三

官房機密第四六二四號

昭和十五年七月五日

陸軍次官 阿南 惟 幾 殿

海軍次官

德太郎

件照會 日本製鋼所室蘭製作所構内ニ外國人出入ニ關スル

日本製鋼所室蘭製作所構内海軍用地ニ建設中ノ當省特設工場ニ据附クベ
キ機械ノ組立及試運轉ノ爲左記ノ通獨逸人ヲ各附記期間特設工場内ニ出
入セシメ候條室蘭製作所駐在貴省監督官ニ傳達方可然取計ヲ得度

記

一 機械納入會社代人

ハインツ、ローレンツ

昭和十五年七月十日ヨリ約一週間

ニ組立工

レンツ



(本田納) 市



三 組立工

ストツフエル

昭和十五年七月十日ヨリ約六箇月間

四 技師

ドクトル、エンゲル

昭和十五年十月中旬ヨリ約二箇月間

(註) 組立工及技師ノ滞在ハ工事進捗状況ニ依リ延長スルコトアリ

(終)

(本田納)

市

閱

一五燃發第一〇九號

昭和十五年七月一日

至急

燃料局長官 東

榮

陸軍 次官

殿

契

資料

南田

液体燃料五ヶ年計畫資料調査ノ件

當局ニ於テハ目下昭和十六年度以降昭和二十年年度ニ至ル液体燃料五ヶ年計畫ノ樹立ヲ取急ギ居候處右資料トシテ貴廳關係へ官廳用ノモノニ付テハ所管官衙ノモノヲ含ムノ向後五ヶ年間ノ各年毎需要推定量ヲ別紙様式ニ依リ至急御調査ノ上來ル七月十五日迄ニ御回報相煩度尙右五ヶ年計畫ノ樹立ニ關シテハ從來執リ來レル燃料政策ニ對シ現狀並ニ將來ノ趨勢ヲ考慮シ相當ノ修正或ハ變革ヲ加フル必要有之候條左記御含ミノ上御調製相煩度此段及依頼候也

追而調製上特ニ協議ノ要アル方面ニ付テハ近日關係官ノ御參集ヲ相煩ス豫定ニ付御含置相成度

第 四 六 號

七月十一日

| | | |
|---|----|-----|
| 月 | 日 | 資源課 |
| 八 | 當課 | 保管 |
| 別 | 線 | 入 |

陸軍

陸軍省 15.7.2.

燃料局長官

陸軍省 15.7.2. 第 73 號 資源課

陸軍省 15.7.2. 第 73 號 資源課

七月十日

第四七號

圖書

高橋

軍務

田島

閱

拾年保

管行第六三八號

陸軍省 第一三三二五號

昭和十五年七月三日

陸軍省御中

拓

陸軍省 昭和十五年七月四日 前午 大臣官

務

標記印刷物二部御參考迄送付ス

外地地方行政區劃便覽送付ノ件

陸軍省 昭和十五年七月四日 9/6 軍務課

省 大臣

附屬物同封

陸

軍

一部 當課原管ス 七月九日 軍務課 田島

一部 當室三保管ス 七月九日 閱覽室 高橋

機密

第四八號

七月十日

閱

米二機密合第三一〇八號

昭和十五年七月五日

外務次官 谷

正之

陸軍次官 阿南惟幾殿

「ハヴァナ」會議ニ關スル件

本件ニ關シ今般在亞内山公使、在巴水澤公使、在「ハヴァナ」南條領事ヨリ夫々別添ノ通り來電アリタルニ付何等御參考迄茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍、海軍、拓務、商工、大藏各次官、企畫院次長

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

別紙添附

外務省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

七月四日前着有田外務大臣宛在巴奈馬水澤公使來電寫
「サンホセ」二日發「ユービー」電ニ依レハ「コスタリカ」ハ來
ルヘキ「ハヴァナ」會議ニ於ケル諸提案ニ全幅ノ支持ヲ與フヘシ
ト豫期セラレ又同國ハ米國ト步調ヲ合セ米大陸ニ於ケル歐洲諸國
屬領ノ現状カ征服ニ因リ變更セラルルコトヲ認メサルヘク又「ラ
テン、アメリカ」諸國間ノ軍事同盟ニ贊意ヲ表スヘシト（了）

七月三日着有田外務大臣宛在「ハバナ」南條領事來電寫

當地ニ於ケル新聞及一般情報ヲ綜合スルニ「ハバナ」會議ノ成果ニ
疑問ヲ抱ク者多ク伯國、亞爾然丁、智利、「ウルグアイ」及「パラ
グアイ」(二日出發ノ處十日間延期セリト傳ヘラル)ノ外相ノ列席
ナキ事ハ「ハル」長官ノ説明ニモ拘ハラズ重要視セラレ居レリ
本會議ニ對スル當地獨逸側態度ハ直接何等牽制策ヲ執ラス本會議ニ
於テ反獨行動ヲ執ル國アラハ後日返禮スヘキ旨放送シツツアリ(電
地新聞紙ハ獨逸ノ經濟的餘力ヲ相當大キク評價シ居リ且又二十九
日紐育米伯協會ニ於テ伯國經濟委員長「ジョアン、アルベルト、リ
ンス、デ、バロス」カ「武力ナキ國家ハ參戰スヘカラス自ラ防備ナ
キ國家ハ強大國ニ挑戦スヘカラス吾人ハ米國ノ援助ヲ必要トス乍併
吾人ノ求ムル援助ハ軍艦、大砲、軍需品ノ形式ニ於テニアラスシテ
經濟問題解決ニ必要ナル協調ニ在リ」ト演說セルニ對シ連日贊成ノ

論說多ク又一イストラ、デ、ピヨシノ」島歸屬問題ニ關シ同島カ玖瑪島ト共ニ一個ノ西班牙植民地ヲ形成シ居タリトテ米國側ノ讓與問題ニ反駁ヲ加ヘツツアリ

尙七月一日夜玖瑪外相ハ「ラヂオ」ニ於テ「ハヴァナ」會議ノ重要性ヲ高調シ巴奈馬會議ノ決議ハ一ノ警戒手段タルニ止マリタルモ本會議ノ決議ハ緊急事態ニ面シ直ニ實行手段ニ入ル爲ニシテ其ノ結果ハ玖瑪政治ノ改新时期ト前後シ當國內外ニ與フル影響大ナルヘシト放送セリ（玖瑪ハ七月五日新憲法公布同十四日大統領上下兩院議員總選舉アル筈）

七月四日着有田外務大臣宛内山公使來電寫

「ハヴァナ」會議亞國委員ハ左ノ通決定セリ

Doctor Leopoldo Melo 前「パナマ」會議全權

Doctor Lelipe Espil 在米大使

Doctor Luis Podesta Costo 全米中立委員會亞國代表

Ceferino A Lonso Irigoyen 經濟顧問在米大使館商務官

Zuberbuehler 事務總長

尙「メーロ」團長ハ五日當地發米國船「ウルガイ」號ニテ出發ノ豫
定ナルカ「ウルガイ」「バラガイ」伯刺西爾等ノ委員モ乘組ミ七月
二十二日紐育着ノ筈ナルモ途中特ニ「ハヴァナ」寄港方考慮中ノ由
ナリ

第 四 九 號

| | | | | | |
|---------------|---------|---------|-----------------------|-----------------------|----------------|
| (裁決)行決 覽回後 | 連 帶 | | 決 行 指 定 | 決 裁 指 定 | 保 存 期 限 三 年 |
| | 長 (部) 局 | 長 (部) 局 | | | |
| | | | 大 臣 | 件 名 | 番 號 |
| | | | 委 | | |
| | | | 政 務 次 官 | | |
| | | | 委 | | |
| 長 課 | 長 課 | 長 課 | 長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參 | 長 課 務 主 官 副 級 高 官 與 參 | 起 元 應 (課 名) |
| | 航 空 本 部 | 防 衛 | 銃 砲 | 工 政 | 外 務 省 |
| | | | | | |
| | | | 長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參 | 長 課 務 主 官 副 級 高 官 與 參 | 審 案 者 |
| | | | 河 村 | 河 村 | 陸 |
| | | | 員 課 務 主 | 員 課 務 主 | |
| | | | 福 山 | 福 山 | |
| | | | 房 官 臣 大 | 課 局 務 主 | |
| | | | 了 結 領 受 | 出 提 領 受 | |
| | | | 昭 和 年 | 昭 和 年 | |
| | | | 五 月 十 二 日 | 五 月 六 日 | |
| | | | | | |

政 務 官 回 付 (決 行 前)

(決 行 後)

壹 二 五 〇 六 號
中 華 民 國 之 民 政 府
答 札 使 一 行 全 場 見 學 子 研

審 案 者

陸

航 空 本 部
15.5.25
受 付

(陸普)

副官ミリ兵器本部總務部長、島津製作所
社長宛通牒

(速達)

今報來朝セル首題ノ一行(別紙參照)ニ左記ノ通工場
見函ヲ許可セラレシニ付劣向ノ節ハ可然便宜供與
方相煩シ度

追テ見函ヲ許可範圍ハ軍用資源秘密保護法ニ
依ル秘匿箇所ヲ除クモノトス

記

島津製作所(京都市中京區) 昭和十五年五月二十九日午後三時半ミリ

大阪陸軍造兵廠 昭和十五年五月三十日午後三時三リ

(注意) 「内ハ兵器本部總務部長(長) 島津製作所社長宛」

ノミニ入レテ作ル

陸普第三四四〇號

昭和十五年五月廿七日

副官ニハ航空本部、憲兵司令部各總務部長及海軍省副官宛通牒

今般來朝セル首題ノ一行(別紙参照)ニ左記ノ通工場ノ見學ヲ許可セシメ付可然取許ト相成度
追テ見學ヲ許可範圍ハ軍用資源秘密保護法ニ依ル秘密箇所ヲ除クモノトス

記

島津製作所(京都市中京區三條工場) 河原町通三條南

大阪陸軍造兵廠

昭和十五年五月二十九日午後二時半ヨリ
昭和十五年五月三十日午後二時ヨリ

陸普第三四四〇號

昭和十五年五月廿七日

(注意) 航空本部宛ニハ(丙)ヲ省ク

海軍省宛ニハ(丙)及追書ヲ省キ(丙)ヲ通牒スニ改メ作ル

次官ニリ外務次官宛回答

五月二十三日附亞一機密第四一八號照會ニ係ル首題ノ件許可セラレ且舊關係ノ向ヘ夫ノ年配致シ置キ候ニ付承知相成度回答也

此向也

陸普第三四四〇號

昭和五年五月廿七日

菅田



別紙

中華民國國民政府赴日答禮使節一行名簿

正專使

陳

公

博

(立法院長)

副專使

褚

民

誼

(行政院副院長兼外交部長)

使節

陳

羣

(內政部長)

林

柏

生

(宣傳部長)

陳

君

憲

(行政院參事廳廳長)

參贊

陳

伯

藩

(立法院外交委員會委員長)

湯

澄

波

(工商部次長)

紀

華

(立法院經濟委員會委員長)

徐

本

諒

(司法院中央懲戒委員會委員)

楊

鴻

烈

(宣傳部編審主任、林部長通譯)

隨員

徐世清 (內政部禮俗司司長)

高勝岳 (陸軍少將)

吳兆蓮 (海軍少將)

李蔭南 (行政院參事)

張超 (文官處參事、褚副專使通譯)

孫滉 (駐日辨事處長)

譚覺真 (外交部參事、陳正專使通譯)

孫理甫 (外交部亞洲司第一科長、慕務總長)

秘書 耿善懿 (駐日辨事處秘書)

張而康 (政治訓練部專員陳正專使秘書)

周東伯 (外交部專員褚副專使秘書)

鐘 任 壽
(宣傳部秘書)

以上二十二名

日本側同行者

陸軍大佐

谷

萩

那

華

雄

興亞院書記官

矢

野

征

記

陸軍少佐

大

村

敏

風

大使館書記官

清

水

董

三

大使館理事官

中

村

正

文

外務省係官

外務事務官

武

野

義

治

外務屬

中

島

嘉

壽

雄

支那新聞記者一行名簿

支那側代表者

中央電訊社代表

張

昭

銘

上海中華日報

現代晚報

代表

穆

時

英

國民新聞

申報代表

秦

墨

炳

南華日報

天濱日報

代表

章

建

之

自由日報

杭州日報代表

周

雨

人

中華影片公司攝影記者

周詩穆

日本側同行者（二名）

大使館囑託

波多
神尾

博茂

機密

亞一機密第四一八號

昭和十五年五月二十三日

外務次官 谷

正



陸軍次官 阿南 惟幾 殿

新中央政府答禮專使陳公博一行ニ對シ便宜供與方依頼ノ件

今般來朝セル新中央政府答禮專使陳公博一行（人名表別紙甲號ノ通ニテ他ニ日本側七名同行ス）ニ於テハ五月二十九日午後二時三十分島津製作所三條工場及同三十日午後二時大阪造兵廠參觀方特ニ希望シ居ル趣（日程表別紙丙號ノ通）ナルニ付テハ右參觀許可方御配慮相煩度尙右一行ニハ支那側新聞記者六名及日本側世話係員

受領
陸軍省
15.5.24
陸軍大臣
708

別紙添附

二名（人名表別紙乙號ノ通）同行シ居ル處右啓發ノ意味モアリ併
セテ參觀許可方御高配相煩度此段御依頼申進ス

外
務
省

別紙丙號

國民政府赴日答禮使節關西方面行事豫定表

(新聞記者ノ行動ヲ含ム)

| | | (火)日八十二月五 | | | 月日 (曜) |
|-------------------|-----|------------------------------|------------------|--|-----------|
| | | 午前 | 午後 | 午後 | 時 |
| 九三〇 | 九〇〇 | 七〇〇 | 五〇〇 | 四二五 | 間 |
| 桃山御陵參拜 | 宿舍發 | 府、市、會議所主催官民合同 歡迎晚餐會(都ホテル) | 宿 舍 着(都ホテル) | 京 都 驛 着 | 行 事 |
| 案内ハ府警察トス 花環ヲ捧ク | | 同行支那新聞記者 ヲ併セ招宴ス | 自動車行進順序ハ別 ニ定ム | 出迎へ府知事市長商 工會議所會頭トス 宿舎自動車等ノ準備 ハ府知事官房ニテ行 フ | 摘 要 |

| | | (水) | | 五月二十一日 | | | | | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------|----------------------------|------------------|---|-------------|--------------------------------------|-----------------------|----------------------------|--|
| | | 三三〇 | 二三〇 | 午后 二〇〇 | 一三〇 | 一二〇 | 一〇三〇 | | | | |
| 九 五 〇 | 午 前 九 一 三 | 大 阪 驛 着 | 京 都 驛 發 | 爾 後 自 由 行 動 | 宿 舍 歸 着 | 島 津 製 作 所 三 條 工 場 見 學 | 宿 舍 發 | 宿 舍 歸 着 (晝 食) | 武 德 殿 見 學 | 東 本 願 寺 見 物 | |
| 最前列ニ二等車ヲ 増結ス | | | | | | | | | | | |

(木) 日 十 三 月 五

| 午前 | 午後 |
|------|-------------|
| 九五〇 | 一〇三〇 |
| 大阪驛着 | 宿舎着(新大阪ホテル) |
| | 宿舎發 |
| | 大阪城見物 |
| | 大阪造兵廠見學 |
| | 心齋橋附近見物 |

出迎ハ府知事、市長
及商工會議所會頭

宿舎自動車等ノ世話
ハ市秘書課擔任トス

代表者ヲ府、市、會
議所中防司令部ニ派
遣挨拶セシム

自動車行進順序ハ別
ニ定ム

案内ハ市當局トス

梅田驛ヨリ出陣

| | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 六三〇 | 四三〇 |
| 府、市、會議所主催歡迎晚餐會 (新大阪ホテル) | 宿 舎 着 |
| 車トス | 利用ス 大丸ニ於テ茶菓ヲ供ス 大丸ヨリ歸路ハ自動 |

(金) 日 一 十 三 月 五

| | | | | | |
|---------------------------------|------------------------|----------------------------------|----------|-----------|------------------------------------|
| 午前 | 六三〇 | 午后 | 一〇二〇 | 九四〇 | 午前 九三〇 |
| 自由行動 | 阪神在住華僑主催歡迎會 (中央公會堂) | 自由行動 | 鐘紡淀川工場見學 | 大阪株式取引所見物 | 宿舍發 |
| 土產物購入希望者ヲ 百貨店等ニ案内ス (市貨物課) | | 大毎、大朝兩社見學 希望者ヲ案内ス (市秘書課擔任) | | | 午前四時半中央市場 見學希望者ハ案内ス (市秘書課擔任) |

| 六 月 二 日 (日) | 六 月 一 日 (土) | | | |
|--|--|--------------------------|-------------------|------------------------------|
| <p>午前</p> <p>10:00</p> <p>11:00</p> | 7:00 | 6:00 | 5:40 | 午後 3:00 |
| <p>神戸山祝歸郷 (大洋丸)</p> <p>宿舎發</p> | <p>縣、市、會議所合同歡迎晚餐會 (オリエンタル・ホテル)</p> | <p>宿舎着 (神戸オリエンタルホテル)</p> | <p>諏訪山展望台着展望</p> | <p>宿舎發</p> <p>寶塚少女歌劇見物</p> |
| <p>神戸港灣設備見學 希望者ヲ案内ス (市擔任)</p> <p>本テ、埠頭門沿道 ニハ早急、増列前送ス</p> | | | <p>見物終了後茶菓ヲ供ス</p> | <p>案内ハ縣當局</p> <p>阪急電車ヲ利用</p> |

備考

- 一、使節一行（同行者記者ヲ含ム）ノ名簿別紙ノ通り
- 二、警戒ハ東京ニ準ズ

別紙

中華民國國民政府赴日答禮使節一行名簿

正專使

陳公博
(立法院長)

副專使

褚民誼
(行政院副院長兼外交部長)

使節

陳羣
(內政部長)

林柏生
(宣傳部長)

陳君慧
(行政院參事廳廳長)

參贊

陳伯藩
(立法院外交委員會委員長)

湯澄波
(工商部次長)

紀華
(立法院經濟委員會委員長)

隨員

徐本謙 (司法院中央懲戒委員會委員)

楊鴻烈 (宣傳部編審主任、林部長通譯)

徐世清 (內政部禮俗司司長)

高勝岳 (陸軍少將)

吳光蓮 (海軍少將)

李蔭南 (行政院參事)

張超 (文官處參事、褚副專使通譯)

孫湜 (駐日辦專處長)

譚覺真 (外交部參事、陳正專使通譯)

孫理甫 (外交部亞洲司第一科長、事務總長)

秘書

耿

善

颺

(駐日辦事處秘書)

張

而

康

(政治訓練部專員陳正專使秘書)

周

東

伯

(外交部專員褚副專使秘書)

鐘

任

壽

(宣傳部秘書)

以上二十二名

日本側同行者

陸軍大佐

谷 萩 那華雄

興亞院書記官

矢 野 征 記

陸軍少佐

大 村 敏 風

大使館書記官

清 水 董 三

大使館理事官

中 村 正 文

外務省係官

外務事務官

武 野 義 治

外務屬

中 島 嘉壽雄

中華影片公司攝影記者

周

詩

穆

日本側同行者（二名）

大使館囑託

波

多

博

神

尾

茂

別紙

中華民國國民政府赴日答禮使節一行名簿

正專使

陳

公

博

(立法院長)

副專使

褚

民

誼

(行政院副院長兼外交部長)

使節

陳

羣

(內政部長)

林

柏

生

(宣傳部長)

陳

君

慧

(行政院參事廳廳長)

參贊

陳

伯

藩

(立法院外交委員會委員長)

湯

澄

波

(工商部次長)

紀

華

(立法院經濟委員會委員長)

隨員

徐本謙 (司法院中央懲戒委員會委員)

楊鴻烈 (宣傳部編審主任、林部長通譯)

徐世清 (內政部禮俗司司長)

高勝岳 (陸軍少將)

吳兆蓮 (海軍少將)

李蔭南 (行政院參事)

張超 (文官處參事、褚副專使通譯)

孫澐 (駐日辦事處長)

譚覺真 (外交部參事、陳正專使通譯)

孫理甫 (外交部亞洲司第一科長、事務總長)

祕書

耿

善

(駐日辦事處祕書)

張

而

(政治訓練部專員陳正專使祕書)

周

東

(外交部專員褚副專使祕書)

鐘

任

(宣傳部祕書)

伯

壽

以上二十二名

日本側同行者

陸軍大佐

谷 萩 那華雄

興亞院書記官

矢 野 征 記

陸軍少佐

大 村 敏 風

大使館書記官

清 水 董 三

大使館理事官

中 村 正 文

外務省係官

外務事務官

武 野 義 治

外務屬

中 島 嘉壽雄

支那新聞記者一行名簿

支那側代表者

中央電訊社代表

張

昭

銘

上海中華日報

現代晚報

代表

穆

時

英

國民新聞

申報代表

秦

墨

炳

南華日報

天濱日報

代表

章

建

之

自由日報

杭州日報代表

周

雨

人

中華影片公司攝影記者

周

詩

穆

日本側同行者（二名）

大使館囑託

波

多

博

神

尾

茂

閱

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

大國陸軍造兵廠經由

陸軍兵器本部經由
島兵辰第一二七號

昭和十五年六月九日
15.7.9.
前午
臣大

工場監督
官認印

會社代表
者認印

陸軍省
軍務課
15.7.9.
208

陸軍 昭和十五年六月九日
經由第二二四號

中華民國人弊社工場參觀實施狀況報告ノ件

昭和十五年六月七日

京都市中京區河原町通祿下二船入町言太齋地
株式會社島津製作所事業管理人

島津源吉



陸軍大臣 畑 俊 六 殿

昭和十五年五月十日附陸普第三〇七本號ヲ以テ御許可相受候首
題ノ件左記ノ通り實施セシメ候條此段御報告申上候
記

一、參觀 日 時

昭和十五年五月二十九日

一、參觀者ノ 國籍

午後二時三十分—午後三時
中華民國國民政府赴日答禮使節團

身分又ハ職業氏名

專使 立法院長

外三八名（內邦人五名ヲ含ム） 陳 公 博

一、參觀セシ工場名

京都市中京區西ノ京桑原町十八番地

株式會社 島津製作所三條工場

1. 2506

5.99

軍當局ノ許可範圍タル第二類第十、第十一工場第三類第七、第三工場及軍管理外タル第四、第二、第五工場等

當社取締役社長 島津源吉

當社工務課課長 小山峻二

一、案内者又ハ説明者
身分又ハ職業名
一、立會者ノ身分又ハ
職業名
一、參觀者ノ着眼及
應答事項

工場ニ入ルニ當リ左記ノ質問應答アリ
陳氏「此ノ工場ハ随分大キイデスネ」
社長「而シ此ンナ工場ハ支那ヘ行ケバ珍シクナイデセウ」

一、感想
一、其ノ他參考事項

右ノ外別段ノ應答ナシ
特ニ記スル事ナシ
一行ハ國民使節トシテ來邦ノ途次非常時産業界ノ一端ニ接シントシ弊社工場ノ概況ヲ見學ノ爲來場セルモノナリ
但東京ヨリ五月二十八日京都着、五月三十日大阪ニ向フ其ノ中五月二十九日來場セルモノナリ

以上

陸普 副官ヨリ工業品規格統一調査會第三部長 面答
六月六日附一五工規第四六號照會ニ係ル首題ノ規格改正
案關スル意見無之ニ付承知相成度

圖書第四七二七號

昭和五年七月十日



一五工規第四六号

昭和十五年六月六日

工業品規格統
第三部
部長



陸軍省

御中

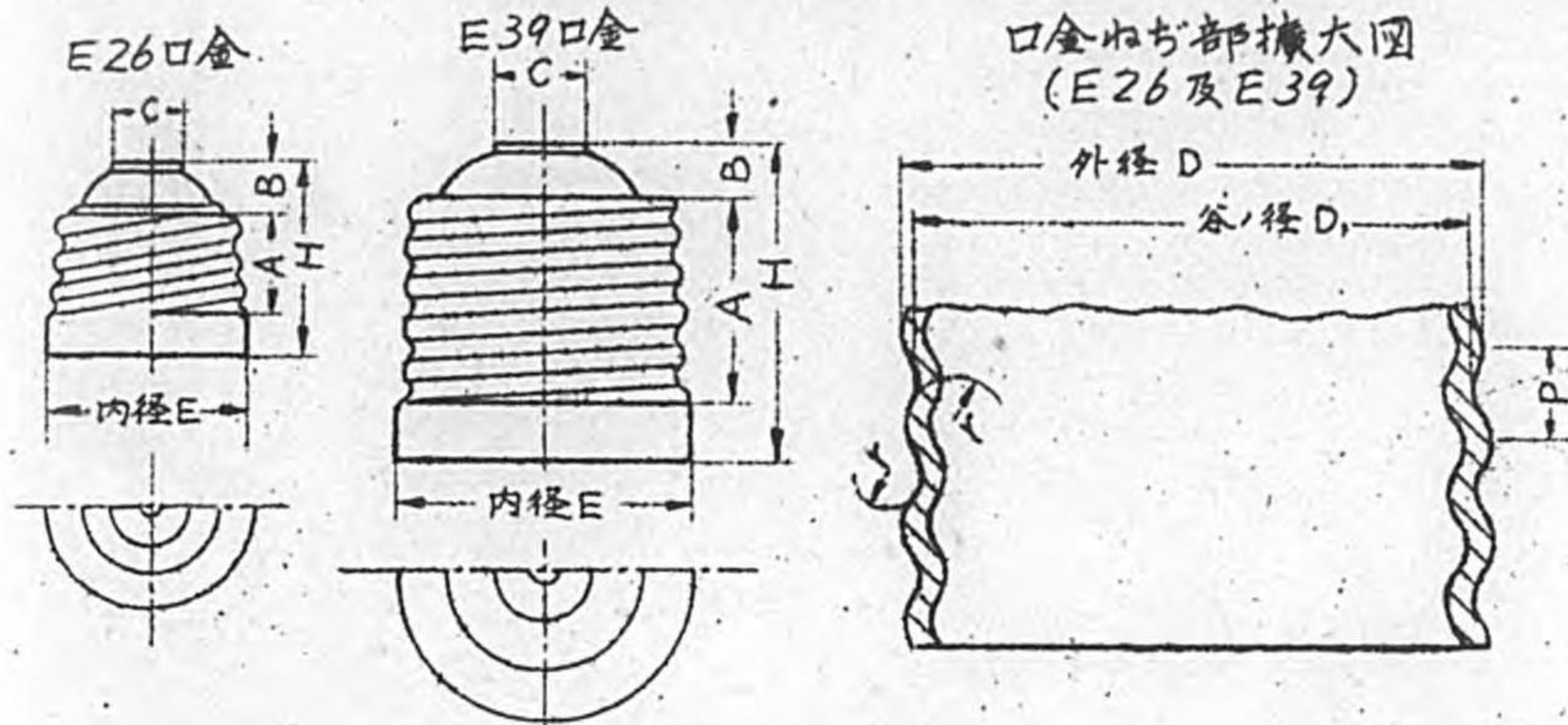
當調査會第三部第二委員會ニ於テ日本標準規格第十二号電球用ねぢ形
口金及受金ノ規格改正ニ關シ審議中ノ趣今般別紙ノ通決定致度候ニ付
テハ該案ニ對スル御意見承知致度候衆午御手致宗七月十日迄ニ商工省
總務局内本調査會宛御回示相煩度此段及照會候也

六



電球用ねじ形口金及受金規格改正案
(日本標準規格第12号)

口金



口金、寸法

單位mm

| 称呼 | 外径 D | | 谷径 D ₁ | | ピッチ P | r | H | A | B | C | 内径 E |
|-------|------|------|-------------------|------|-------|------|----------|--------|---------|----------|----------|
| | 最大 | 最小 | 最大 | 最小 | | | | | | | |
| E26口金 | 26.4 | 26.2 | 24.7 | 24.5 | 3.63 | 1.17 | 24.6±0.5 | 12.5以上 | 7.0±0.5 | 11.1±0.1 | 25.4±0.5 |
| E39口金 | 39.5 | 39.2 | 37.0 | 36.7 | 6.35 | 2.31 | 41.3±0.5 | 26.2以上 | 7.2±0.5 | 14.3±0.1 | 38.1±0.5 |

受金

受金ねじ部擴大図 (E26及E39)



受金、寸法

單位mm

| 称呼 | 谷径 d | | 内径 d ₁ | | ピッチ P | r |
|-------|------|------|-------------------|------|-------|------|
| | 最大 | 最小 | 最大 | 最小 | | |
| E26受金 | 26.8 | 26.6 | 25.1 | 24.9 | 3.63 | 1.17 |
| E39受金 | 40.0 | 39.7 | 37.5 | 37.2 | 6.35 | 2.31 |

第五一號

| | | | | | | | | | |
|---------------|--|----------|--|-----------|--|-------|--|----------|--|
| (裁決)行決 覽回後 | | 帶 連 | | 決行指定 | | 決裁指定 | | 保存期限 | |
| 長(部)局 | | 長(部)局 | | 大臣 | | 件名 | | 受領 | |
| | | | | 委 | | | | | |
| | | | | 政務次官 | | | | | |
| | | | | 委 | | | | | |
| 長 課 | | 長 課 | | 長局務主 | | 官副級高 | | 官與參 | |
| | | 防衛 工政 銃砲 | | 河村 | | 河村 | | | |
| | | 森 馬 | | 長課務主 | | 副官 | | 主務 | |
| | | | | 河村 | | | | 書記官 | |
| | | | | 員課務主 | | 松山 | | | |
| | | | | 壽 | | | | | |
| | | | | 房官臣大 | | 課局務主 | | | |
| | | | | 了結領受 | | 出提領受 | | 號番 | |
| | | 昭和 | | 昭和 | | 昭和 | | 軍務課第502號 | |
| | | 年七月十二日 | | 年六月十八日 | | 年 月 日 | | | |
| | | | | 昭和五年六月拾八日 | | | | | |

訪日墨國實業家、日立製作所日立工場
見學二回スル件

壹第 二九四四號

貿易局

政務官 書記官 回付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者



陸

軍

別官ヲ株式会社日立製作所社長、兵器本部、
憲兵司令部、西總務部長及海軍省別官
宛通牒（以下陸普）

今般日墨兩國、貿易振興ノ目的ヲ以テ貿易局
ノ斡旋ニ依リ貿易組合中央會ノ招致セル訪日
墨國實業團（別紙參照）ニ對シ六月二十四日ヨリ同
二十七日ニ至ル間ニ於テ一日貴社日立工場ノ見學ヲ
許可セテレタルニ付（可然取計ニ相煩度）

◎注意

陸普第四一二二番 昭和十一年六月十八日
会社以外ハ「」

（内ヲ（承知相成度）ニ作ル

次官ヨリ貿易局長官宛回答

首題ノ件ニ關スル六月十四日附貴翰了承致候

陸軍

右ノ御申越、通許可相成リ夫々關係ノ向ハ通報
後ニ置キ候ニ付及回答候也

陸普第四一二號 昭和五年六月十八日

榮

河村

一五貿一第

號 二九四四

昭和十五年六月十四日



貿易局

陸軍次官殿

貿易局長官 小島新



訪日メキシコ國實業家工場見學ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般貿易組合中央會ヨリ別紙寫ノ通申越有之候處右ハ
當局指導ノ下ニ同中央會ニ於テ豫テ實施中ノ貿易振興對策トシテ本邦
産業貿易事情ヲ視察セシメ對日認識ヲ是正シ以テ輸出貿易ノ振興ニ資
スル爲墨西哥國ヨリ招致セルモノニ有之候條差支ナキ限り便宜供與方
御配慮相煩度此段及御依頼候也

機密貿易中對第六八一號

昭和十五年五月廿三日

貿易組合中央會
會長 兒玉謙次

商工省貿易局長官 小島新一 閣下

訪日外國實業家工場見學ニ關スル件

拜啓時下愈々御清適之段奉賀候

陳者曩ニ御承認ヲ得置候本會招致墨西哥國實業家ハラスエロス一行
内地視察ニ當リ東京附近代表工場トシテ左記ノ通り見學致サシメ度
候處時局柄軍需品生産ヲ行ヒ居ル關係上豫メ軍當局ノ承認ヲ得度候
ニ付宜敷之ガ斡旋方願上度茲許各略歷相添へ申進候
敬具

記

墨西哥國實業家工場見學日程

招致者氏名

レオポルド・アチエ・バラスエロス
アンドレス・チャバ
フランシスコ・デ・ペー・モラレス

見學豫定日

六月二十四日ヨリ二十
七日ニ至ル期間中一日

工場名

株式會社日立製作所
日立工場

訪日墨西哥實業家略歴

氏名及

一、墨國聯合商工會議所會頭パラスエロス氏略歴

現住所　メキシコ市インスルヘンテ街一〇〇番地

出生地　メキシコ國ベラタルス州ベラタルス市

父　レオポルド・パラスエロス（西班牙人）死亡

母　ピクトリア・サイス・カルテロン・デ・パラスエロス死亡

長男　レオポルド・アチエ・パラスエロス

(LEOPOLDO H. PALAZUELOS)

一八八九年十一月三日生

學業

一、一九〇一年ヨリ一九〇四年迄プエブラ市サンベルナルド中學校ニ修學並メメキシコ市タフパヤ區在ウイリアムス専門學校高等科ニ在學ス
一、一九〇五年ヨリ一九〇八年迄北米合衆國ワイラゲルワイヤ市ピイアス、スタイル商科ニ在學、同校卒業後直ニ英吉利ニ渡リ倫敦、リバ

「ブール、マンチエスター、エチンバラ、ダラスゴ」其ノ他ニ於テ
家庭教師ニ就キ修學、更ニ研究ノ爲メ西班牙、佛蘭西及北米合衆國
ヲ旅行ス

職 業

一、一九〇九年外遊ヨリ返キシヨニ歸國シベラタルヌ市父關係ノフエリ
ツペ・アラド商會ニ支配人トシテ入社ス、其ノ取扱業務ハ通關、
仲介、銀行、船會社代理、輸出入及牧畜業等

一、其ノ後同商社ハ稱號及組織變更、レオポルド・パラスエロヌ・エ
イツホ商會トナリ其ノ共同出資社員トナル

一、一九三八年三月十八日ヨリシヨ政府ノ石油事業收用途左記事業ニ關
係ス

釀造マゲイ農場、綿羊牧場、木材業、石油事業、石油事業ハ政府ガ
收用シタルアギラ石油會社、ウラス子カ石油會社、ヒリス石油會社、
カリフォルニア・スタンダード石油會社等ニ關係ス

關係名譽職

一、永年メキシコ聯合商工會議所役員ヲ勤ム

右ハ全國商工會議所組合數二百三十ヲ有ス、其ノ間メキシコ實業組合聯合會々頭ヲモ勤メ現在ハ右メキシコ聯合商工會議所會頭

一、一九三〇年メキシコ實業家間ニ於テ組織サレシメキシカン・グツド・コミシオン觀光團ニ參加シ三ヶ月間ニ亘リ北米合衆國ヲ旅行ス

一、モンテレー市商工會議所前會頭代表 アンドレス・チャパ 氏略歴

現住所 ヌエボ・レオン州モンテレー市ヘネラルツレヒニヨ街

コレヒオシビル街角

出生地 ヌエボ・レオン州マリン市

父 サルスチイアノ・チャパ

母 フリアナ・ゴンサレス・デ・チャパ

長男 アンドレス・チャパ

(ANDRES CHAPA)

一八九八年十一月三十日生

學 歷

一、モンテレー市ノ中學校及專門學校ヲ卒業

職 業

一、一九二三年迄父ヲ助ケ父ノ業務ニ從事ス

其ノ後兄弟リカルド・ホセノ等ト共同ニテカサ・デヤパ株式會社ヲ創立シ其ノ經營ニ當ル

一、食糧品、藥種品、衣服反物其ノ他自動車附屬品等ノ卸業ヲ營ム、各地ニ支店並出張員ヲ置ク

一、公共事業ニモ興味ヲ持チモンテレー市商工會議所ニ關係シ嘗テ同所理事、會頭ニ推サレタルコトアリ

一、今回モンテレー商工會議所ヨリ其ノ代表ニ推サレテ渡日實業團ニ參加スル次第ナリ

一、元上院議員辯護士フランシスコ・デ・ペー・モラレス氏略歴

現住所

ヌエボ・レオン州モンテレー市

出生地 現住所ニ同ジ

フランシスコ・デ・ペー・モラレス
(FRANCISCO DE P. MORALES)

學歷並職業

一、モンテレー市ニ於テ修學、嘗テ同市専門學校ノ歴史、文學ノ教師タリシコトアリ

一、一八九八年ヨリ一九〇三年迄モンテレー市商業會議所支配人ヲ勤ム

一、モンターナ州設定當時同州事務總長ヲ勤ム

一、一九〇四年ヨリ一九〇九年迄メキシコ中央政府大審院判事ヲ勤ム

一、一九一〇年ヨリ一九一二年迄メキシコ共和國下院議員ニ選バル又一九一三年ヨリ一九一四年迄メキシコ共和國上院議員ニ選バル

一、革命後辯護士業ニ従事ス、以テ今日ニ至ル

其ノ間アギラ石油會社管理者トシテ一九三五年迄従事ス又常ニ新聞業ニ興味ヲ持チ有名ナル歴史家カルクス・ペレイラ氏ト共ニ「ニル

「新聞社長タリシコトアリ

一現在「エル・ソル」新聞（モンテレー市）ノ特別寄稿家ニシテ又「
アタテイピダ」新聞社ノ共同經營ヲナシ、主トシテ經濟並社會問題
ニ關シ執筆

一現在モンテレー市商工會議所顧問辯護士タリ、今回團長秘書格トシ
テ一行ニ參加シ日本旅行ヲ新聞ニ寄稿シ且歸國後ニ於テ日本視察記
ヲ著述スル抱負ヲ有ス

因ニモンテレー市ハタキシヨ第二ノ大都會ニシテタキシヨ第一ノ工業
都市デアル

（完）

昭和十五年四月廿七日作成

昭和十五年四月廿七日作成

| 月日 | 曜 | 行程 | 摘 | 要 | 宿泊 |
|-------|---|--------------|---|---|--------------|
| 五月十八日 | 土 | 横濱→東京 | 日本郵船淺間丸ニテ横濱着 少憩後上京(横須賀線) | | 帝國ホテル |
| 十九日 | 日 | 東京 | | | 帝國ホテル |
| 二十日 | 月 | 東京 | 晩餐 貿易組合中央會歡迎會 | | 帝國ホテル |
| 廿一日 | 火 | 東京 | 午前十時 國際文化振興會訪問 | | 帝國ホテル |
| 廿二日 | 水 | 東京→横濱 | 午前九時五十二分 東京發(横須賀線) 午前十時二十一分 横濱着 横濱生糸検査所參觀 午後三時 中央會神奈川縣支部歡迎會 工場見學 市内觀光 | | ホテル・ニュー・グランド |
| 廿三日 | 木 | 横濱→鎌倉 →東京 | 午前鎌倉へ(自動車) 午後鎌倉海濱ホテル 午後三時三十分 鎌倉發 午後四時三十分 東京着 | | 帝國ホテル |
| 廿四日 | 金 | 東京 | 午後三時三十分 貿易懇談會 | | 帝國ホテル |
| 廿五日 | 土 | 東京 | 午餐 日本商工會議所 | | 帝國ホテル |

| | | | | |
|-------|---|--------------------|---|----------|
| 五月廿六日 | 日 | 東京 日光 | 午前八時二十分 上野發 午前十時三十分 今市着 自動車ニテ日光へ、東照宮參詣 | 金谷ホテル |
| 廿七日 | 月 | 日光 東京 | 午前中禪寺湖、華嚴瀧觀光 午後四時三十分 日光發 午後六時三十分 上野着 | 帝國ホテル |
| 廿八日 | 火 | 東京 | 午餐 日本貿易協會 | 帝國ホテル |
| 廿九日 | 水 | 東京 | | 帝國ホテル |
| 三十日 | 木 | 東京 名古屋 | 午前九時十七分 東京發(燕號) 午後二時十七分 名古屋着 (長良川鵜飼) | 名古屋觀光ホテル |
| 卅一日 | 金 | 名古屋 | 工場見學、市内觀光 晚餐 中央會愛知縣支部歡迎會 | 名古屋觀光ホテル |
| 六月一日 | 土 | 名古屋 山田 鳥羽 奈良 | 午前八時二分 名古屋發 午前十時 山田着 午前十一時 鳥羽發 午前十二時 鳥羽着 午後一時 奈良發 午後二時 奈良着 午後三時 奈良發 午後四時 奈良着 午後五時 奈良發 午後六時 奈良着 | 奈良ホテル |

| | | | | |
|------|---|-------|---|--------|
| 六月二日 | 日 | 奈良 | 觀光 | 奈良ホテル |
| 三日 | 月 | 奈良→京都 | 午前十時三十六分 奈良發 午前十一時四十二分 京都着 晚餐 中央會京都府支部歡迎會 | 都ホテル |
| 四日 | 火 | 京都 | 工場見學、市内觀光 | 都ホテル |
| 五日 | 水 | 京都 | 保津川下り | 都ホテル |
| 六日 | 木 | 京都 | 琵琶湖、比叡山行 | 都ホテル |
| 七日 | 金 | 京都 | | 都ホテル |
| 八日 | 土 | 京都→大阪 | 午前十時五十二分 京都發 午前十一時五十分 大阪着 晚餐 中央會大阪府支部歡迎會 | 新大阪ホテル |
| 九日 | 日 | 大阪 | 市内觀光 | 新大阪ホテル |
| 十日 | 月 | 大阪 | 工場見學、懇談會 | 新大阪ホテル |
| 十一日 | 火 | 大阪 | | 新大阪ホテル |
| 十二日 | 水 | 大阪 | | 新大阪ホテル |
| 十三日 | 木 | 大阪→宮島 | 午前十時四十五分 大阪發 午後五時三十八分 宮島着 | 宮島ホテル |

| | | | | |
|-------|---|--------|--|------------|
| 六月十四日 | 金 | 宮島↓下關 | 午前 燬島神社參拜 午後五時三十八分 宮島發 午後九時 下關着 | 山陽ホテル |
| 十五日 | 土 | 下關↓別府 | 午前九時 門司發 午前十時三十六分 別府着 | 龜ノ井ホテル |
| 十六日 | 日 | 別府 | 觀光 | 龜ノ井ホテル |
| 十七日 | 月 | 別府↓ | 午後一時三十分 別府港發 | 船 中 |
| 十八日 | 火 | ↓神戸 | 午前七時 工場見学、懇談會 晚餐 中央會兵庫縣支部歡迎會 神戸港着 | オリエンタル・ホテル |
| 十九日 | 水 | 神戸 | 觀光 | オリエンタル・ホテル |
| 二十日 | 木 | 神戸↓宮ノ下 | 午前八時二十八分 三ノ宮發 (鴨號) 午後三時二十分 沼津着 芦ノ湖經由宮ノ下へ | 富士屋ホテル |
| 廿一日 | 金 | 宮ノ下 | 富士五湖巡り | 富士屋ホテル |
| 廿二日 | 土 | 宮ノ下 | | 富士屋ホテル |
| 廿三日 | 日 | 宮ノ下↓東京 | 午後二時 二十分 小田原發 午後四時 五分 東京着 | 帝國ホテル |
| 廿四日 | 月 | 東京 | | 帝國ホテル |

| | | | |
|-------|---|-------|--|
| 六月廿五日 | 火 | 東京 | 帝國ホテル |
| 廿六日 | 水 | 東京 | 帝國ホテル |
| 廿七日 | 木 | 東京 | 帝國ホテル |
| 廿八日 | 金 | 東京—横濱 | <p>晚餐 貿易組合中央會送別會</p> <p>午前十一時二十二分 東京發 (横須賀線)</p> <p>午前十一時五十一分 横濱着</p> <p>一、ホテリ・ニュー・グランドニ少憩後日本郵船</p> <p>一、鮎田丸ニテ羅府經由歸國</p> |

陸軍省 第二九四四 號

昭和十五年七月二日

陸軍兵器本部 經由



| | |
|------|-----------|
| 兵器本部 | 經由第三二八號 |
| 陸軍省 | 昭和十五年七月九日 |

東京市麹町區 拾貳番地

株式會社 製作所

取替 伊平浪平

伊藤文雄

陸軍大臣 畑 俊六 殿

外國人弊社工場觀覽ノ件報告

昭和十五年六月拾八日附陸普四一一二號ヲ以テ觀覽許可賜リ候墨國經濟使節團ニ對スル觀覽ノ件左記及報告候也

記

一 目的並ニ觀覽工場名 工場一般觀覽

ニ 觀覽者名 レオポルド・エツチ。パラズイロス氏外二名

三 狀況

昭和十五年六月二十六日墨國經濟使節團團長レオポルド・エツチ。パラズイロス氏外二名並ニ同使節團世話人タル貿易組合中央會ノ安間藤藏、清水常通兩氏ヲ加ヘタル一行五名上野發午前九時十分發列車ニテ日立工場見學ノ爲出發ス。

是二九四四

當社輸出部岡部、清水案内ス。

列車内ニ於テバラスイロス氏外一行ハ休息ヲ欲シ時々讀書スル以外田園風景ニ就キ數回談話アリタル以外特記スベキ質問應答ナカリキ。

午後十二時十七分大野着、直ニ自動車ニテゴルフ俱樂部ヘ向ヒ、到着後同俱樂部ニテ森島日立工場長並ニ大西副工場長ノ挨拶アリ。中食中ゴルフニ關スル談話アリタル以外何等特記スベキコトナシ。

中食後午後一時三十五分同俱樂部出發、日立工場へ自動車ヲ驅ツテ午後二時日立工場着、應接室ニテ小憩後陳列室ニ至リ大西副工場長ノ概略的ナ製品説明ヲ聽ク。

午後二時四十分ヨリ自動車ニテボイラ！工場、變壓器工場ノ一部、回轉機工場ノ一部、配電盤工場ノ一部ノ順序ニ見学ス。途上二三製品ノ名稱等ニ關スル以外ハ特記スベキ質問應答ナシ。

午後三時二十分配電盤工場ヨリ直ニ自動車ニテ日立驛ヘ向ヒ同驛午後三時三十二分發列車ニテ歸京ス。上野着午後六時四十九分。

上野着後直ニ自動車ニテ宿所帝國ホテルヘ歸ラレタリ。

歸途列車中ニテハ墨國ノ風景、同國商業情況ニ關スル談話アリタル以外特記スベキ質問應答ナカリキ。

以上

第五二號

執行指定

航業部長委任

決裁指定

三年

保存期限

注意

(本審案用紙八三年以前保存ノモノニ使用スルモノトス)

政務次官
參與官
回付
決裁前後連帶
後課名

決行(決裁)後
回覽
課名

| | | | | | | | |
|--------|------|------|----|----------|-------|--------------|---------|
| 房官臣大 | | 課局務主 | | 大臣 | | 件 | 番受 |
| 了結 | 領受 | 出提 | 領受 | 號番 | 大臣 | 名 | 號領 |
| 昭和 | 昭和 | 昭和 | 昭和 | 航本發第四一二號 | 委 | 軍需品工場見學ニ関スル件 | 壹第三一八〇號 |
| 年 | 年 | 年 | 年 | | 本部長 | | |
| 七月十二日 | 七月九日 | 月 | 月 | | 秋山 代 | | |
| (裁決)行決 | 回覽 | 後 | 連 | | 次官 | | |
| 長局 | | | 長局 | | 委 | | |
| | | | | | 政務次官 | | |
| | | | | | 委 | | |
| | | | | | 參與官 | | |
| | | | | | 高級副官 | | |
| | | | | | 原 | | |
| | | | | | 主務課長 | | |
| | | | | | 森 | | |
| | | | | | 主務副官 | | |
| | | | | | 官房御用係 | | |
| | | | | | 計 | | |
| | | | | | 副官 | | |
| | | | | | 官 | | |
| | | | | | 書記官 | | |
| | | | | | 書記官 | | |
| | | | | | 審案 | | |
| | | | | | 者筆 | | |
| | | | | | 記案 | | |
| | | | | | 中山 | | |

起元應(課)名
商工省總務局

表
軍

陸善

通牒

副官ヨリ商工省總務局長へ

六月二十八日^附五總社第二九七號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件

秘密關係ヲ除キ許可セ^レ命通牒ス

陸普第四七三二號

昭和五年七月十日

陸善

副官ヨリ株式會社日立製作所社長小平浪平へ

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通照會有之秘密關係ヲ除キ

許可セラレタルニ付承知相成度

陸普第四七三二號

昭和五年七月十日

陸善

副官ヨリ航本總務部長、海軍省副官へ

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通照會有之秘密關係

陸軍

ヲ除キ許可セラレタルニ付「依命通牒ス」
註、海軍省副官宛ハ「」内ヲ「承知相成度」トスルヲ

陸普第四七二二號 昭和十五年七月十日



帶 連

局長部 部長部

陸軍省 領 壹 第 三 八 〇 號

第八課 受付

一五總祕第二九七號

昭和十五年六月二十八日

陸軍省 15.6.28 大 陸 軍 省 印

商工省 總務局 局長

陸軍省 15.6.29 第 二 課 統 制 課 商

陸軍省 印

陸軍航空本部 15.6.30 第八課 受付

航空本部 15.6.30 受付

(四)

陸軍省副官 步兵大佐 川原直一殿
工業品規格統一及規格實施狀況調査ノ爲左記ノ通派遣可致候ニ付テハ
段及照會候也

許可可否

可

當課周係具存無之ニ付貴部
ニ於テ工廠置相成候
之日也
取 取 録 中

雄 光
次 雄

日立製作所安來工場 島根縣能美郡安來町

帶

主 長 課 長 部 長 部 水

陸軍省 領 壹 第 三 八 〇

第八課 受付

一五總祕第二九七號

昭和十五年六月二十八日

商工省 總務局

陸軍省副官歩兵大佐川原直一殿

工業品規格統一及規格實施狀況調査ノ爲左記ノ通派遣可致候ニ付テハ
當該工場見學方許可御取計相煩度此段及照會候也

記

出張者

一見學工場及見學期日

七月十九日

日立製作所安來工場

島根縣能美郡安來町

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 商工技師 | 大 | 木 | 光 | 雄 |
| 商工技手 | 櫛 | 原 | 雄 | 次 |



七月十日

第五三三號

中村

閱

陸軍省 第一三三三號

拾年保

米二普通合第三〇五二號

昭和十五年七月一日



外務次官



正

之

陸軍次官 阿南惟幾殿

獨逸潜水艦ノ亞國船舶「ウルグアイ」號擊沈ニ關スル件

本件ニ關シ今般在亞内山公使ヨリ別添寫ノ通來電有之タルニ付右何等御參考迄茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省 海軍省

陸軍省 海軍省



別紙添附



五月二十九日

有田外務大臣宛在亞內山公使來電寫

獨潛水艦ノ亞國船舶「ウルグアイ」號擊沈ニ關シ亞國外務省二十八日ノ發表ニ依レハ亞國ノ抗議ニ對シ獨國政府ノ回答ハ二十六日在獨亞國大使ヲ經テ接受セルカ右ニ依レハ獨逸ハ自國潛航艇力「ウルグアイ」號擊沈ノ事實ヲ認メ居ルモ右ノ事情（？）ニ依リ餘儀ナクサレタルモノニシテ故意ニ亞國船舶ニ對シ敵對行爲ヲ執リタルモノニ非ス寧口獨亞兩國ノ海軍及商船間ニハ傳統的友好關係ヲ維持スル爲多大ノ關心ヲ有スル旨記シアル趣ナリ尙亞國ハ其ノ主張ヲ維持スルモノト見ラルルモ抗談文及回答全文ハ公表サレス

機密

寫

通四機密第四八一號

昭和十五年七月六日

外務次官 谷 正之

遞信次官 大和田 悌二 殿

對獨通商報復令（獨貨積出）ニ關スル件

本件ニ關シ七月一日附通四機密合第三〇二三號ヲ以テ申進シ置キ
タル處今般更ニ在獨來栖大使ヨリ別添寫ノ通電報有之右ニ依レハ
目下「ゼノア」港ニ滯貨中ノ貨物ヲ全部積取ルニハ長良丸ノ外尙
一隻必要トスル趣ニ付委曲右ニテ御了悉ノ上貴省意見何分ノ儀御
回示相成度シ

本信寫送付先 陸軍省、海軍省、企畫院、商工省

別紙添附

外